

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成 25年 9月 23日
第 48号

小松原法難七五〇年

小松原法難とは

文永元年（一二六四）十一月十一日の夕方、日蓮聖人と弟子信者十余名が安房国東条の郷松原大路（千葉県鴨川市広場付近）において東条景信らの襲撃を受けた事件を指し、東条法難とも呼びます。

弘長三年（一二六三）二月、伊豆流罪を赦免されて鎌倉に帰った聖人は、翌年の文永元年、安房へ帰郷されました。『可延定業御書』というお手紙に「日

蓮悲母（はは）をいのりて候ひしかば、現身に病をいやすのみならず、四箇年の寿命をのべたり」とありますから、母親の病を見舞われたものと考えられます。

母親の回復を祈り、少し回復に向かった為、十月花房蓮華寺を訪れ以前の師匠であった道善房に面談し、十一月十一日、天津の工藤吉隆公の屋敷に招かれ向かう途中、松原大路において、地頭東条景信の襲撃に遭われました。東条景信にとつて聖人は、

地頭の権力の前に立ち、はだかる敵対者であると同時に、浄土教を批判し宗教生活の根本を非議する極悪人でありました。

条郷の一面にあり、当然ながら地頭東条景信の支配下にある場所です。

聖人一行の動静は十分探知し、襲撃であったと思われ、十余名の聖人の一行の中でも応戦できるものは三〜四人でありました。

降る雨のように矢を射かけられ、電光のように太刀を斬りつけられるなかで、弟子一人が殉死し、二人が重傷を負い、聖人自身も頭に傷を受け、左の手をうち折られました。

応戦が功を奏したか、救援が駆けつけたものか、景信自身が目的を達成したと判断して手を緩めたか、ともあれ、襲撃の中で命を落とすことなく危機を逃れました。

この事件について、約一カ月後、南条兵衛七郎に送ったお手紙に「今年も十一月十一日、安房国東条の松原と申す大路にして、申酉の時、数百人の念仏等にまちかけられ候て、日蓮は唯一人、十人ばかり、ものの要にあふものはわずかに三四人也。いるやはふるあめのごとし、うつたちはいなづまのごとし。弟子一人は当座にうちとられ、二人は大事のてにて候。自身もきられ、打たれ、結句



小松原法難の霊場
霊跡本山鏡忍寺

景信の聖人に対する憎しみは強く、聖人の帰郷を機会に迫害を加えんとしたものでした。

松原は東

報恩団参開催要項

- 報恩法要
開催人数 十名以上
報恩料 一名二、〇〇〇円
所要時間 約二時間半程度
※ 所要時間は旅程のご都合に合わせてご相談に応じます
- 特別開帳
開催人数 一名より
開帳料 一名二、〇〇〇円
その他
和讃奉納 等
※ お申し込みいただいた方には、改めて詳細を記した開催要項をお送り致します
- 報恩団参各種お申し込み
● 報恩写経納経
● 写経納経料
● 祈願
● 報恩塔婆奉納
● 納教二聖者
● 祈願
● 法難光臨鬼子母札
● 読み上げ祈願のみ
● 卒塔婆回向
● 読み上げ回向のみ
● 献香（境内三祖墓前 並 上人塚）
● 献華（境内三祖墓前 並 上人塚）
● 護持献金
● 法難霊場護持
● 記念写真
● ハツ切りサイズ 一枚一、〇〇〇円
※ 各お申し込みの詳細は、開催要項にてご確認ください

お申し込み／お問い合わせ
電話 〇四一七〇九二一〇六〇四
本山鏡忍寺まで

交通のご案内

JR : 外房特急「わかしお号」東京駅より安房鴨川駅（終点）まで約2時間
車 : 東京湾アクアライン～君津IC～房総スカイライン～鴨川有料道路から鴨川（東京より約2時間）



にて候し程に、いかが候けん、うちもらされていままでききてはべり。
いよいよ法華経こそ信心まきざり候へ」
と、当時のありさまを具体的に記述されています。
殉死した弟子とは鏡忍房、工藤吉隆、重傷を負った二人は乗観房・長英房と伝え、後に襲撃のあった地に鏡忍寺が建立されました。
更に聖人は身延入山後、多難な弘教活動を振り返り「文永元

年甲子十一月十一日頭にきす（疵）をかほり左の手を打ちをらる」（『聖人御難事』）と記されています。
聖人は天津に逃れ、翌年、鎌倉に帰られました。
建長五年（一二五三）の信仰告白以来、清澄寺の追放、更に文応元年（一二六〇）の『立正安国論』の上申を経て松葉谷草庵の焼打、伊豆流罪、今回の東条景信の襲撃、と聖人に対する迫害の連続は、聖人自信の法華経の行者意識を高めていきまし

從地ゆじゆつ

◆「一つになろう」「一致団結」「目標は一つ」「少局を捨て大道に……」
ある、でも中々その結果を出す事は難しい。
先の参議院選挙でも野党が一つになってまとまって戦えば状況は違っていたであろう。

◆人間、特に日本人はグループを作る意識が強いのではないかと感じる。島国根性ではないだろうか、気の合うもの同志が集まる習性なのだろうか。

◆日蓮聖人のご生涯はどうであったろうか。
常に真実の教え、正法を捉えるに当たっては妥協のない生き方をされた。法華経の行者たる者の自覚を持たれ、歩まれる状況の中には大難四ヶ度、大難知れずと常に命がけの日々であった。

◆小松原、伊豆、竜ノ口、佐渡ヶ島の難は、命を落とすべき程の大難だったが、大難が起これば起る程、法華経の行者日蓮としての自覚が高まっていた。

◆その大難には必ず変化の力が現れた。小松原では鏡忍房、竜ノ口では自然界の光り物、伊豆では弥三郎、佐渡では阿仏房等々。

◆一人でスタートされた日蓮聖人、敵、味方あれども法華経の行者として、法華経の教えを釈尊出世の本懐として布教伝道され多くの人を教化された。
「天四海皆歸妙法」を目標に向い、日蓮聖人の心を伝えるべく二陣三陣と続いていく。
◆「教学」は受け継ぐ弟子達の捉え方により、一つのグループが生まれてくる。
日蓮聖人の教えを継承し伝道するも、各宗、各派、各教団の教学が次々と誕生する。
各宗、各派、各教団は違いがあってもその頂点には日蓮聖人、法華経があることは絶対である。
門下連合会という素晴らしい組織が誕生し昨年結成五十年を迎えた。
深く甚大である。
◆教義、伝道教化、広報、護持運営等、其々に違いがあるが、「一つになろう」が実現出来れば祖願に近づける。
日蓮聖人ご降誕八百年は「一つになろう」のスローガンである。（源）

顕本法華宗管長就任挨拶



総本山妙満寺貫首
山本日恵

去る第三十八定期宗会に於いて決定され、三月十五日の招戴式を経て妙満寺の第三百六世の法灯を継承いたしました山本日恵でございます。

門連は、私が二十代のころから手伝いをしてきた、大変懐かし、そして思い出深いことのある団体であります。また一介の寺院住職として、行事毎に刈り出されて妙満寺の貫首さんの松下猥下、亡き今村師等と御会式の前宣伝に、寺町の電気屋で自家用車にマイクを取り付けて、市内一円を周回したのも遠い思い出の一つです。門連の御会式も当時は大変盛況で、「本能寺」を出発した先頭が、目的地の「丸山音楽堂」に到着しているのに、最終がやっと出発できるほどでした。叡山への開宗会も、バス六台、時には七台ということもありました。一時の盛況ぶりから見ると、近年は大変寂しくなっております。

近年いわゆる「ぼとけごと」と言われる、仏事全般が簡略化という美名のもとに、ないがしろにされている実態を見るたびに、今のままでは遠くない将来、多くの仏教行事が埋没してしまうのではなからうかと危惧しております。原因のない結果はないわけで、数えればいくつか挙げられるでしょうが、今はそれよりもどうすることがあるべき姿を取り戻す道か

を探求すべきかと思えます。これは決して門連のみの問題ではなく、私たち皆の上へのしかかっている大問題でありましょう。

葬儀式の簡略化・法事等の簡素化等、私たち出家者が安易に見過ごしてきたツケが舞い込んできたのです。もともと厳粛にあらねばならなかったと思えます。まず葬儀式の簡略化には、私たちは絶対抗議すべきであります。誕生・成人式・結婚・第一子誕生という、人生の大きな節目とも言うべき一人の「人の終焉の場」は、最も大切な儀式の一つであってほしいものです。六十年なり七十年の歴史を刻んだ一人の人間の最期なのです。華美にする必要はないものの、亡き人の矜持を傷つけない式典は、子孫としてなすべき当然のことであろうと思えます。なまじ通知を絞ったために、後から恥ずかしい思いをしたという話もよく聞かれます。法事の簡素化については、私たち坊さんもその場に加わる一人として進言

すべきだと思えます。もちろん当家の経済状況も考えるべきでしょうが、案内をしない理由が単に顔を知らないからとか、忙しそうだからというの見せかけの理由であって、それは準備をしてなかったのが最大の理由であります。私たちはその家の大事な仏様をお預かりしているのですから、その方の節目の御法事は前もってわかるのですから、一、三年前から準備をするようにアドバイスするのです。私はそれが、本当の親切であらうと思っております。これは親戚関係にある檀信徒同士から聞く話ですが、親戚の疎遠になる一つの原因にもなっているように思えます。

私たちの生活環境は、歳毎に狭くなりつつあります。親戚との交際もうるさい一面もあるものの、普段の付き合い次第で大切な問題も相談できるのです。大きいことが良いとは限りませんが、親戚との付き合いは大事にしておきたいと思えます。就任の挨拶が大変下世話なものになりましたが、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

「オラトリオ日蓮聖人」演奏会開催

昭和五十七年に日蓮聖人門下連合会が宗祖七百遠忌報恩事業の一つとして初演した「オラトリオ日蓮聖人」が三十年ぶりに再演されることになりました。



田日勇師が六老僧日向聖人第七百遠忌報恩事業として主催し、茂原交響楽団・「オラトリオ日蓮聖人」を歌う合唱団・立正大学グリーククラブ・日蓮宗谷中学寮の協力により、茂原市民会館、墨田トリフォニーホール（錦糸町）の二箇所で開催されることになりました。

「オラトリオ日蓮聖人」は、作詞に西川満氏、作曲に黛敏郎氏が担当され、宗教上の偉人の生涯を劇的に音楽に乗せて物語る聖譚曲として、五年の歳月をかけて完成しました。五部十五章か

▼人事（事務局への連絡日を含む）

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二四・一一・二六	門谷日悠 布施義高	法華宗陣門流	理事	就任	退任
平成二五・三・七	中村日玄 山本日恵	顕本法華宗	顧問	就任	退任
平成二五・五・三〇	伊藤通明 持田貫宣	日蓮宗	相談役	就任	退任
平成二五・五・三〇	持田貫宣 遠藤文祥	日蓮宗	監査	就任	退任
平成二五・八・一三	小西日邊 平田日範	法華宗本門流	顧問	就任	退任

推薦図書

- ◆ 第1部「海」 1 誕生 2 立志 3 開宗
 - ◆ 第2部「花」 4 折伏 5 娯岩 6 合戦
 - ◆ 第3部「光」 7 諫言 8 寂光 9 降星
 - ◆ 第4部「雪」 10 配所 11 開顕 12 赦免
 - ◆ 第5部「山」 13 禅定 14 勤行 15 入滅
- とされ、日蓮聖人の波瀾に満ちた生涯を朗読の展開によって、独唱、合唱、オーケストラの伴奏に太鼓が加わり壮大に表現されております。
- 現在、日蓮聖人門下連合会でもこの演奏会に向けて力強く後押しをしておりますが、門下僧侶をはじめ多くの一般の方々までもが、宗祖の生涯と法華経の精神に思いを馳せながらご試聴されては如何でしょうか。
- 【開催日】
平成二十五年十月六日（日）午後二時
千葉県茂原市茂原市民会館
平成二十五年十月十九日（土）午後二時
墨田トリフォニーホール（錦糸町）
【チケットお申込・お問合せ】
日蓮宗本山 藻原寺
- 千一九七〇〇二六
千葉県茂原市茂原二〇一
TEL 〇四七五（二二）三二五三
- 第四百八十八回直木賞受賞作品
安部龍太郎著『等伯』（上下巻）・日本経済新聞出版社
各一六八〇円（税込）
絵師「等伯」の誕生を骨太に描く傑作長編。
三十三歳で能登から上洛。物事の本質を極めたいという絵師の性と、荒ぶる武家の血が、妻子とともに苦難の道を歩ませる。そして、本能寺の変が運命を変える。
都に出て天下一の絵師に。



仏教関係のご旅行に詳しい担当がお手伝いします。

- ・全国各地や海外への団体参拝
- ・各種研修会会場やパーティー会場手配



新宿法人営業部
TEL: 03-5369-3929 FAX: 03-3225-1005
masaharu_kaneko@gnta.jp
担当：営業7課 金子雅晴
遠方のお客様には近隣の支店をご案内いたします

義父母の非業の死により故郷を追われ、焦熱の道へ。激動の戦国の世と法華の教えが、画境を高め、誘う。「あなたの絵には真心がある」やがて信長の天下が終わり、大手を振って京へ……。

愛と鎮魂の「松林図」。等伯がたどりついた境地。

都で地歩を固め、信長が重用した狩野永徳と対決。長男・久藏の狩野派入りと秀吉の朝鮮出兵を巡り、永徳の死後、両派の確執は深まる。「松林図」はなぜ描かれたのか。

誰も見たことのない絵を。狩野派との暗闘、心の師、千利休の自刃……秀吉の世に台頭する長谷川派を次々と襲う悲劇。窮地に立たされた等伯は、命をかけた一枚に挑む。亡き者たちを背負い、名刺を離れ、おのれの画境へ。

（藤井照源）

本年十一月十一日は小松原
法難七百五十年を迎えます

(平成二十五年九月現在)

日蓮宗宗務院

宗務総長	渡邊照敏	財務部長	川口智康
伝道局長	齊藤憲一	宗務総長室長	渡邊義生
総務局長	塩崎望巳	現代宗教研究所長	三原正資
伝道部長	中井本秀	参	与 渡邊一之
教務部長	川口久雄	参	与 吉田海心
総務部長	池田弁岳	日蓮宗新聞社社長	村上俊正

〒146-8544 東京都大田区池上一-1321-15
電話 〇三(三七五二)七一一五
FAX 〇三(三七五二)七一一八

法華宗(本門流)宗務院

管 長	平 田 日 範
宗務総長	二 瓶 海 照
庶務部長	佐 藤 義 賢
財務部長	久 永 晃 顕
布教部長	齋 藤 舜 顕
教務部長	金 井 孝 顕
松 本 義 仙	

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二-19-1
電話 〇三(五六一四)三〇五五(代)
FAX 〇三(五六一四)三〇五六

顕本法華宗宗務院

管 長	山 本 日 恵
宗務総長	朝 倉 俊 幸
宗務次長	藤 崎 行 学
教務部長	早 川 義 正
庶務部長	阿 曾 久 成
社会部長	湯 原 純 勇
布教部長	桑 村 信 慶
財務部長	河 野 時 巧

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九-1
電話 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長	石 丸 日 然
宗務総長	佐 古 弘 文
総務部長	牧 野 秀 成
教務部長	布 施 義 高
教化部長	今 井 満 良
財務部長	金 原 孝 宜
企画部長	山 岸 観 深

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨五-135-16
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇二二一

本門佛立宗宗務本庁

宗務総長	木 村 日 覚
宗務副総長	西 村 日 要
宗務副総長	植 松 常 二 郎
教務局長	亀 井 圭 魁
弘通局長	植 田 日 事
総務局長	藤 本 日 唱
広報局長	澤 田 日 松
財務局長	西 村 日 勲
特別局長	藤 本 日 涌

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上多東町二-10番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管 長	嘉 儀 日 有
宗務総長	岩 崎 広 義
宗務部長	岩 崎 広 義
財務部長	原 田 智 光
教務部長	原 光 明

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上七法皇町四四八
電話 〇七五(七七二)三三九〇
FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管 長	田 仲 日 紘
宗務総長	堀 智 泰
総務部長	木 村 完 祥
教務部長	堀 内 浩 善
教化部長	加 藤 順 正
財務部長	土 田 泰 源
社会部長	峰 尾 泉 栄

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上九紋屋町三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長	松 下 日 肆
宗務総長	藤 井 日 靖
宗務部長	増 田 隆 雄
財務部長	吉 村 日 彦
宗務部長	土 畑 信 教
教務部長	山 田 岳 隆
庶務部長	高 邊 晶 啓

〒602-8418 京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内
電話 〇七五(四五二)三三二七
FAX 〇七五(四五二)三五九七

宗教法人 国柱会

賽 主	田 中 壮 谷
理 事 長	田 中 勇 一 郎
門連常任理事	本 間 直 暉
門連理事	藤 本 坦 孝
門連理事	原 田 義 彦
門連理事	森 山 真 治
編集委員	的 場 春 奈
編集委員	的 場 春 奈

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六一-19-18
電話 〇三(三五六六)七二二一(代)
FAX 〇三(三五六六)九九八〇
<http://www.kokuchukai.or.jp>

京都日蓮聖人門下連合会

会 長	伊 丹 日 章
副 会 長	嘉 儀 日 有
理 事 長	藤 井 照 源
副 理 事 長	岩 崎 広 義

京門連事務局
〒606-8376 京都市左京区二条通川端東大菊町九六
頂妙寺布教会館内日蓮宗京都府第一宗務所内
電話 〇七五(七六二)二四一一
FAX 〇七五(七五二)九三三八

日本山妙法寺大僧伽

首 座	吉 田 行 典
責任役員	酒 井 天 信
同	今 井 行 康
同	池 田 行 朗
同	二 宮 和 嘉
同	木 津 博 充
同	川 岸 行 孝

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町八一七
電話 〇三(三四六一)九三六三
FAX 〇三(三四六一)九三六七

<p>頭本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九二)七二七一 FAX 〇七五(七九二)七二六七</p> <p>貴首 山本 日恵 執務 吉永 義康 執事 山本 晃道 執事 中村 英司 執事 湯原 正純 執事 小川 正義</p>	<p>法華宗(本門流)大本山 本興寺</p> <p>〒606 0862 兵庫県尼崎市開明町三十一三 電話 〇六(六四一)三三二七 FAX 〇六(六四一)二四三八</p> <p>貴首 小西 日遼 執事 長 圓成 淳龍 役員 一同</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 8576 東京都大田区池上一一一一 電話 〇三(三七五)一三三三一 FAX 〇三(三七五)三三五〇</p> <p>貴首 酒井 日慈 執事 長 野坂 法雄 役員 一同</p>	<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409 2593 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(六二)一〇一一 FAX 〇五五六(六二)一〇九四</p> <p>法主 内野 日総 総務 井上 瑞雄</p>
<p>多寶富士山 日蓮本山 本山要法寺</p> <p>〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八 電話 〇七五(七七二)三三九〇 FAX 〇七五(七七二)五九一四</p> <p>貴首 嘉儀 日有 執事 長 丹治 日遠 執事 原 岩崎 智光 執事 原 田 智光</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五二)三五二七 FAX 〇七五(四五二)三五九七</p> <p>貴首 松下 日肆 執事 長 音羽 隆全 役員 一同</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル 紋屋町三三〇 電話 〇七五(四四一)五七六二 FAX 〇七五(四四一)五六六六</p> <p>貴主 田仲 日紘 執事 長 足立 真正 執事 本多 信正 書記 永岡 悠希 書記 笹木 研吾</p>	<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇 電話 〇二五六(三三)〇〇〇八 FAX 〇二五六(三三)〇〇五九</p> <p>貴首 石原 丸然 執事 長 笹原 壯玄 執事 平井 孝光 執事 栗田 孝之 執事 荒川 公孝 執事 近藤 正文 執事 五十嵐 義昭</p>
<p>宗祖御降誕霊場 日蓮宗大本山 誕生寺</p> <p>宗祖御降誕八百年に向かつての祈り</p> <p>〒299 5501 千葉県鴨川市小湊一八三 電話 〇四(七〇九五)二六二一 FAX 〇四(七〇九五)二〇五五</p> <p>貴首 石川 日命 執事 長 橋本 宏信</p>	<p>日蓮宗大本山 日蓮聖人出家得度の霊跡 清澄寺</p> <p>別当 二宮 日敬 執事 長 宮崎 雅宣 役員 一同</p> <p>〒299 5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一 電話 〇四(七〇九四)〇五二五 FAX 〇四(七〇九四)〇五二七 団参には是非、研修会館をご利用ください。 一六〇名様まで可。</p>	<p>日興上人御聖廟 日蓮宗大本山 富士山法華本門寺根源</p> <p>貴首 旭 日重 執事 長 川名 義顕 参 与 吉田 日綱 参 与 井野上 正文</p> <p>〒418 0112 静岡県富士宮市北山四九六五 電話 〇五四四(五八)一〇〇四 FAX 〇五四四(五九)〇三〇三</p>	<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>住職 山内 日開 二十五世講有 執事 長 小野山 日住 事務局長 伊藤 隆之</p> <p>〒602 8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ノ鼻町一〇五―一 電話 〇七五(四六三)四六二〇(代) FAX 〇七五(四六三)四六五一</p>
<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>山主 嶋田 日新</p> <p>〒166 0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八 電話 〇三(三三三)六二四一 FAX 〇三(三三三)五〇〇七</p>	<p>日蓮宗大本山 中山法華経寺</p> <p>貴首 新井 日湛 参 与 田代 浩敬 参 与 渡辺 行俊 参 与 植田 観樹 参 与 吉田 文堯 参 与 田中 貞奨</p> <p>〒272 0813 千葉県市川市中山二―一〇―一 電話 〇四七(三三四)三四三三 FAX 〇四七(三三四)一七九六</p>	<p>徳川家康公報恩創建 日蓮宗由緒寺院 除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安 瑞輪寺</p> <p>貴首 井上 日修</p> <p>〒110 0001 東京都台東区谷中四―二―一五 電話 〇三(三八二)四三七三 FAX 〇三(三八二)七〇三三</p>	<p>日蓮宗霊跡本山 比企谷 妙本寺</p> <p>貴首 早水 日秀 執事 長 立野 正泰 山務役員一同</p> <p>〒248 0007 鎌倉市大町一―一―五―一 電話 〇四六七(二二)〇七七七 FAX 〇四六七(二五)六九六七</p>
<p>平成三十三年二月十六日は 宗祖御降誕八百年を 迎えます</p> <p>平成二十五年九月現在</p> 	<p>日蓮門下お題目初唱之霊場 日蓮宗本山東身延 藻原寺</p> <p>貴首 持田 日勇 総務 増田 寶泉 執事 長 富永 一道 " 中川 貫泰</p> <p>〒297 0026 千葉県茂原市茂原一―二〇―一 電話 〇四五五(二二)三二五三 FAX 〇四五五(二二)一一七三</p>	<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>貴首 安藤 日瑛 参 与 伊東 隆司 同 宇根 海静 同 新林 昭源 執事 長 藤井 照孝 同 藤部 陽雄 同 川合 陽雄</p> <p>〒606 8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六 電話 〇七五(七七二)〇五六二 FAX 〇七五(七五二)一〇〇四</p>	<p>日蓮宗本山 身延山久遠寺</p> <p>貴首 石原 丸然 執事 長 笹原 壯玄 執事 平井 孝光 執事 栗田 孝之 執事 荒川 公孝 執事 近藤 正文 執事 五十嵐 義昭</p>

門連時報

祖廟参詣及び身延理事会開催さる

平成二十五年五月二十日(木)、日蓮宗総本山身延山久遠寺内祖廟において、全国日蓮聖人門下連合会顧問・常任理事・理事・監査・大阪門下懇話会理事長等、二十八名が参列し法味を言上。続き、報恩閣にて身延理事会が開催された。

午後一時四十五分、渡邊照敏理事長が座長となり議事を進行。「平成二十四年度事業報告」「平成二十四年度決算報告」について事務局より報告。決算報告では別所日山師より監査会で精査されたことが告げられ一同承認。次に、「平成二十五年度事業計画案」「平成二十五年年度予算案」を事務局より報告、一同承認。続き、「京都門下連合会活動報告」を藤井照源理事長より、「地方門下連合会活動に関する報告」を東孝信理事長より報告された。「その他」の事項では、「オラトリオ日蓮聖人」における各教団の参加が、藻原寺貫首持田日勇師より求められていることを事務局より報告し、十一教団が異体同心して協力することが確認された。午後三時閉会。会場を日本平ホテルに移し、午後六時より各派教団による懇親会が開催された。

本門法華宗 大覚大僧正第六五〇遠忌 日隆大聖人第五五〇遠忌 御報恩法要

五月十二日、大本山妙蓮寺において、大覚大僧正第六五〇遠忌・日隆大聖人第五五〇遠忌御報恩法要が奉修されました。

当日は初夏を思わせる快晴となり、天童稚児練り供養行列が本隆寺様より正午に出発、七十二名のお稚児さんとその保護者・ご寺院方・檀信徒など総勢二百八十名の大行列となりました。

午後一時、松下日肆貫首大導師のもと、京都日蓮聖人門下各本山代表・教学講習の先生方・工事関係諸氏をご来賓に迎え開式。本山総代による献茶、本山婦人会による献花がなされ、天童稚児代表の稚児問答により本堂が荘厳、大導師日肆貫首より御遠忌の慶讃文が奏上され、読経、参列者献香、唱題。

続いて式典へ移り、御遠忌奉讃会委員長藤井日靖総長より、御報恩事業として記念出版した

京都日蓮聖人門下連合会 四大事業開催

御降誕会

日蓮大聖人七九二回御降誕会が二月十六日、日蓮宗大本山本願寺で奉行され、門下本山会貫首猊下、僧侶、檀信徒約百名が参列した。法要に先立ち総会が開催され事業報告、会計報告、役員改選等承認された。降誕会法要は、吉田日厚貫首導師、藤井照源(京門連理事長)、岩崎広義(京門連副理事長)、副導師のもと進められ、日蓮大聖人御降誕に御報恩の誠を捧げた。法要後、京門連副理事長、岩崎広義師による「日蓮聖人の御生涯」と題し講話があり、日蓮大聖人の御降誕の意義を学んだ。



立教開宗会

第七六一回立教開宗会が、四月二十六日、日蓮大聖人近畿御遊学十二年比叡山横川定光院で

『宗門史(前編)・勝劣派の系譜』を執筆された増田日紘閑士、同じく御報恩事業として本堂大屋根改修工事を施工した金剛組に感謝状が贈られました。最後に

奉讃会委員長藤井日靖総長より謝辞があり、御報恩法要は、ご随喜のご僧侶方とご参詣の檀信徒のみなさまが唱える本門八品のお題目により、先聖先師への



同、建長五年の清澄寺旭が森に思いを馳せ、そこに辿り着くまでの定光院での日蓮大聖人の苦勞を偲んだ。法要後は、石山寺を見学、一同親睦を深めた。

夏季大学

京都日蓮聖人門下連合会主催の第四十九回夏季大学が八月三十一日、本能寺文化会館で開催され、門下本山会貫首猊下、僧侶、檀信徒約二百名が参加し、聴聞した。日蓮聖人の誠心を永遠に語り継ぐ「今、生きるよるこび、生かされるよるこび」のテーマのもと、三講師のお話を聞き、学んだ。

日蓮宗本山法寺貫首瀬川日照猊下は「御題目の尊さ」―日親上人の生涯を通じて―と題し講演。立正大学名誉教授中尾堯先生は「法華本尊の諸仏像」続いて直木賞作家安部龍太郎先生が「長谷川等伯と法華信仰」と題し講演された。

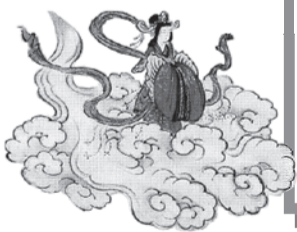
尚、十月五日(土)に日蓮宗大本山妙蓮寺に於て御会式を奉行する。(藤井照源)

報恩感謝のお気持ちを捧げていただき、閉式となりました。(吉村光敬)



日蓮聖人註画讚

小松原山鏡忍寺宝蔵



A4判上製本箱付/112頁/
オールカラー
発願・小松原山本山鏡忍寺
監修・中尾堯
頒価5,250円(税込・送料別)



日蓮宗を代表する貴重な御伝記を初めて解説・読み下し、現代語訳を添えました。



(株)日蓮宗新聞社

〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3 FAX 03-3753-7028 TEL 03-3755-5271

各派・教団・短信

て、公開研究会が開催された。三名の研究発表後、布教総監河村孝照師、立正大学講師の藤野泰二氏による特別公開講義が行われた。

◆五月二十三日・二十四日の両日、寛文法難先師顕彰参拝が行われ、宮崎県日南市にある顕彰碑前において報恩法要が奉修された。

◆七月二十五日・二十八日の三泊四日にわたり、総本山妙満寺を会場に「第四十九回・顕本青少年錬成会」が開催された。

◆八月二十五日・九月八日の十五日間にわたり、総本山妙満寺において、妙塔学林が開催された。

顕本法華宗

◆二月二十日・二十一日の両日、静岡県浜松市内において、妙塔学林研究科が開講された。布教総監河村孝照師による俱舎論の講義が行われた。

◆二月二十八日、千葉県木更津市本立寺において、開祖日什大正師の開山法要が奉修された。法要後、特命布教師・小松正学師による講演が行われた。

◆三月六日・七日の両日、総本山妙満寺において、第六十八定期宗会が開催された。平成二十四年度宗務事業報告及び決算、平成二十五年度事業計画及び予算案が承認された。宗会において、二期にわたる管長を勤めた中村日玄親下がご勇退され、新たに推挙された山本日恵親下が、新管長・第三〇六世貫首となられた。

◆四月十五日、総本山妙満寺において、前管長中村日玄親下より新管長山本日恵親下への、顕本法華宗管長・総本山妙満寺貫首の法燈承継式が執り行われた。承継式終了後、グランドプリンスホテル京都において、賑やかに祝賀会が行われた。

◆四月二十七日・二十八日の両日、総本山妙満寺において、「開祖日什大正師御生誕七〇〇年慶讃大法要」が厳修された。また正法法要・春季報恩大法要・併せて東日本大震災三回忌追悼法要と霊玉「安珍清姫の鐘」鐘供養が併修された。鐘供養後に、奉納演奏として雅楽師・東儀秀樹氏による記念公演が開催された。その他、天童稚児行列など、二日間には渡る慶讃法要が賑やかにとり行われた。

◆五月二十日、総本山妙満寺にお

法華宗陣門流

◆二月三日、総本山本成寺（新潟県三条市）で「節分大祈願会」が本成寺貫首・石丸九日然親下導師により厳修された。今年も大勢の参詣者で賑わい、午後一時と三時の祈願終了後には恒例の鬼踊り、豆まきが行列参詣者を楽しませた。

◆三月六日・七日の二日間、第百二十次定時宗会が宗務院（東京巣鴨）にて開催された。

◆四月二十六日、宗務所長会が宗務院にて開催された。

◆五月八日、宗研所報編集会議が宗務院にて開催された。

◆五月八日、布教研究所員会が宗務院にて開催された。

◆五月十二日、霊跡別院蓮着寺（静岡県伊東市）で「伊豆法難会」が中野日仁主導師により厳修された。本堂での法要に引き続き、狙岩を間近に臨む奥の院にて法要が営まれた。

◆五月十三日・六月二十一日までの四十日間、「法華宗学林」が総本山本成寺にて開講された。今年も全国より多くの寺院徒弟が集まった。学生生達は毎日教学研究・練経・浄行等に励み、行学二道に精進した。

◆五月二十四日・二十六日の三日間、総本山本成寺で「祠堂法要」が日然親下導師により厳修され、全国より多くの檀信徒が参詣した。

◆五月三十一日、会計監査会が宗務院にて開催された。

◆六月三十日、雅楽練習会が宗務院で開催された。

◆七月三十日、宗法審議委員会が宗務院にて開催された。

法華宗真門流

◆三月二十五日・二十七日、総本山本隆寺に於いて、「第三十回僧風林」開催。

◆四月七日・二十六日、総本山本隆寺に於いて、春季学林開講。

◆四月十一日・十三日、総本山本隆寺に於いて、春季大法会厳修。

◆四月十六日・二十日、福井・本承寺に於いて、布教師養成所（岡真行所長）開所。

◆五月一日、第二教区青年会設立総会開催。

◆五月十九日、第二十九回合掌運動北海道大会開催。

◆五月二十日、第三教区教学研修会開催。

◆六月六日・七日、総本山本隆寺に於いて、研修員研修会開催。

◆六月七日、総本山本隆寺に於いて、真門教学講習会開催。午前は、真門学林長岩崎峻暉師の講演「観心本尊抄概論」。午後は、顕本法華宗宗学研究所所長窪田哲正上人の講演「日蓮聖人修行時代の教風について 清楚（釈山）」。

◆七月二十二日、臨時宗会開会（会期一日）。（森田量哲）

◆三月十二日、第百二回本門法華宗宗会が大本山妙蓮寺卯木講堂において開催。

◆三月二十九日、大本山妙蓮寺において遷座法要を奉修。

◆四月十二日、大本山妙蓮寺において春季大法要、併せて本堂開堂法要・大覚大僧正御尊像開眼法要を奉修。

◆五月十一日、大本山妙蓮寺において、御遠忌法要第一座写経納経法要を高邊日援閣士大導師のもと奉修。

◆五月十二日、大本山妙蓮寺において、御遠忌法要第三座大覚大僧正第六五〇遠忌・日隆大聖人第五五〇遠忌御報恩大法要を松下日肆貫首大導師のもと奉修。

◆本門法華宗学院（渡辺日恩学院長）第百四十四回教学講習会を三月二十五・六日、第百四十五回講習会を六月二十四・五日、卯木講堂にて開講。

◆布教誌「生きる」第六十号、信報「信行」第七十九号を七月一日に発行。（吉村光敬）

国柱会

◆四月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

◆五月一日、月旦大國禱。五日、中央連合協議会儀典講習会。指導・若杉日出雄講師。六日、中央連合協議会、鎌倉小町辻説法霊蹟清掃奉仕。

京門連

◆平成二十五年 度。会長 日蓮宗本山本満寺貫首 伊丹日章親下。副会長 日蓮宗本山山要法寺貫首 嘉儀日有親下。理事長 日蓮宗京都府第一部宗務所長 藤井照源師。副理事長 日蓮宗本山山要法寺執事長 岩崎広義師。

◆一月二十五日（金）午後五時 理事会（本能寺文化会館）。平成二十五年役員確認の件、平成二十四年度会務行事の件、平成二十四年度決算の件、平成二十五年度予算案の件、平成二十五年度降誕会の件。

◆二月十六日（土）午後一時 京門連総会（日蓮宗大本山本願寺）。平成二十五年役員確認の件、平成二十四年度会務行事の件、平成二十四年度決算の件、平成二十五年度会務行事案の件、平成二十五年度予算案の件。

◆同日二時三十分 降誕会（日蓮宗大本山本願寺）。導師 大本山本願寺貫首 吉田日厚親下。講師 本山山要法寺執事長 岩崎広義師。

◆三月四日（月）午後五時 理事会（日蓮宗京都府第一部宗務所）。立教開宗会の件、夏期大学の件。

◆四月二十六日（金）立教開宗会（比叡山横川定光院）。導師 日蓮宗本山本満寺貫首 伊丹日章親下。講師 日蓮宗本山山要法寺執事長 岩崎広義師。

◆六月十四日（金）午後四時 理事会（日蓮宗京都府第一部宗務所）。夏期大学の件。

◆八月三十一日（土）午前十時 第五十回夏季大会（本能寺文化会館）。講師（本山）日蓮宗本山山要法寺貫首 瀨川日照親下。講師（大学）立正大学名誉教授 中尾堯先生。講師（一般）直木賞作家 安部龍太郎先生。

◆同日午後四時 理事会（本能寺文化会館）。お会式の件。

◆十月四日（金）午後三時 お会式準備奉行委員会（日蓮宗大本山妙願寺）。お会式準備。行脚 法要等打ち合わせ。

◆同日 理事会（日蓮宗大本山妙願寺）。全門連京都理事会について。

◆十月五日（土）午後一時 お会式（日蓮宗大本山妙願寺）。導師 日蓮宗大本山妙願寺貫首 和田日佑親下。講師 選考中。

◆十月九日（水）京門連設立六十周年記念式典（ANAクラウンプラザホテル京都）。

◆十月二十四日（木）全門連京都理事会（日蓮宗本山本願寺）。日蓮聖

日蓮宗

◆小松原法難七五〇年記念法要が宗門法要として十一月十一日、千葉県鴨川市の本山鏡忍寺で営まれる。

◆身延山久遠寺で第二祖佐渡阿闍梨日向上人の第七〇〇遠忌報恩法要が九月一日と三日に営まれた。

◆千鳥が淵戦没者追善供養並びに世界立正平和祈願法要が八月十五日、千鳥が淵戦没者墓苑で渡邊照敏宗務総長を導師、東京四管区の宗務所長が副導師で営まれた。

◆二月十五日、沼津市大本山光長寺貫首 石田日信親下が任期満了を迎え、十六日、重任された。

◆二月二十五日、法華宗再興之唱導師日隆聖人第五〇遠忌御正當。

◆三月十一日、東日本大震災第三回忌奉修（於 茂原市 大本山鷲山寺）。

◆三月十二日、東日本大震災第三回忌・角塔婆法要奉修（於 福島市 立正院）。

◆三月三十一日、本宗の教義を総合的に研究し、宗旨の宣揚を目的とする「法華宗教学研究所」より、機関誌「桂林学叢」第二十四号が発行。

◆四月二日、日隆聖人により享徳三年（一四五四）に創立され、現在まで続く「興隆学林専門学校」の入学式が行われた。

◆四月十一日、戦没者慰霊法要奉修（千鳥ヶ淵墓苑）。

◆本年は法華宗再興之唱導師日隆聖人の第五〇遠忌に当たり、大本山及び御廟所で大法要が厳修された。

五月三日・五日、尼崎市 大本山本興寺（日隆聖人開山）。

五日・七日、京都市 大本山本能寺（日隆聖人開山）。

六月十六日、射水市 誕生寺（日隆聖人御生誕地）。

五月二十一日・二十三日、第六十七次宗会が開催。本宗会においては、「興隆学林専門学校」の耐震改築が決議された。

日蓮聖人門下連合会

◆五月二十九・三十日、平成二十五年宗務所長会開催。

◆八月十三日、茂原市 大本山鷲山寺貫首 平田日範親下が法華宗第一三代管長に就任。

◆僧侶の資質向上、興学・布教の活性化を目指す、教学講習会の本年日程は次の通り。

四国（六月十七日・十九日）、九州（七月二十三日・二十五日）、北海道（八月二十八日・三十日）、大阪（九月九日・十一日）、東北（九月十日・十二日）、東京（十月二日・四日）。

◆本年より、僧侶の布教技術の攻究を目指す、布教法式研修会が開催される。日程と内容は次の通り。

（法話）九月四日・五日 於 尼崎市 大本山本興寺。

（法要式）九月二十七日・二十八日 於 沼津市 大本山光長寺。（宮村光明）

◆目的 本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡協力、団結を強化することを目的とする。

◆事業 本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

- 1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催

- 5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

- ◆加盟団体 法華宗本門流
日蓮宗 法華宗本門流
日蓮本宗 法華宗本門流
法華宗真門流 本門法華宗
国柱会 日本山妙法寺
京都門下連合会